

RUIZ KASUKABE ARISA ORIANA

国際学部 国際学科 3年

神奈川県私立横浜創学館高等学校出身
2022.4 拓殖大学入学
2024.9 交換留学（スペイン）参加



Plaza Mayor

サラマンカでの10か月間

【研修参加の動機について】

私がスペインを研修先を選んだ理由は、スペイン語の本場であること、そして歴史や文化の奥深さに強く惹かれたからです。特にサラマンカは、スペイン最古の大学を有し、教育と文化の中心地として知られています。スペイン語を体系的に学びながら、現地の人々との交流や日常生活を通じて“生きたスペイン語”を身につけたいと考え、迷わずこの研修を志望しました。また、私の卒業研究では「母語」や「学習言語」に焦点を当てており、スペイン語圏の言語的・文化的背景を実体験として知ることが、研究の基盤を深める絶好の機会でもありました。

研修に行くおすすめの時期については、9月から1月までがお勧めの時期です。理由は、スペインのこの時期は日本ほど寒くなく、観光客も比較的少ないため、落ち着いた環境で生活や学習に集中できると感じました。結果的に、気候も治安も安定しており、学びに集中できる理想的なタイミングでした。

出発前にしておいてよかったと感じることは、拓殖大学でのスペイン語の授業で文法や会話などの基礎科目をしっかり履修していたことです。また、「異文化理解」や「国際協力」に関する科目も、現地での文化の違いを柔軟に受け入れる力を養う上で大切だったと感じています。

【サラマンカについて】

研修先はスペイン中西部に位置するサラマンカでした。サラマンカは「黄金の街」とも呼ばれ、世界遺産にも登録されている歴史ある美しい都市です。サラマンカ大学はスペイン最古の大学のひとつで、世界中から留学生が集まる国際的な教育機関です。

私が参加したのは、サラマンカ大



友達

学の文献学部でした。授業は全てスペイン語で行われ、現地の子たちと授業を受けていました。クラスメートにはヨーロッパやアジア、アメリカなどから来た学生が多く、スペイン語でのコミュニケーションが自然と求められる環境でした。日本との相違点として授業に参加すると、生徒が積極的に発言をし、意見を出し合い、その疑問を解決するために先生自ら授業を中断し生徒の疑問と一緒に考えることはよくありました。日本では見られない光景で、最初は驚きましたが、自分の意見を言い合えるのは素晴らしいことだと思いました。

キャンパスは石造りの歴史的建物が多く、教室や図書館、学食も充実していました。特に大学の図書館では、スペイン語学習に役立つ教材や文献が豊富に揃っており、自主学習にも最適な環境でした。

【研修を通して得たこと、その成果を今後の

学生生活や社会へどのように還元するか、について】

この研修を通じて最も大きかったのは、言語運用能力の向上だけでなく、文化に対する感受性が格段に高まったことです。日本では想像もしなかった考え方や価値観に触れ、違いを楽しむ姿勢が身についたと思います。特にスペイン人の「生活を楽しむ」という姿勢は、今後の人生観にも大きな影響を与えてくれました。

また、自分とは異なる背景を持つ人々と関わる中で、「母語」「文化的アイデンティティ」について深く考えるきっかけを得ました。これは、卒業研究にとっても重要な視点であり、帰国後の執筆に活かしていきたいと思っています。

今後は、スペイン語を活かして日本にいるスペイン語話者の支援活動に携わるなど、実際の社会の中で還元していけるような実践を重ねていきたいです。



お気に入りのカフェ magenta